

「食育・地産地消に関するアンケート」結果報告書

令和6年7月1日（月）から7月31日（水）に実施した「食育・地産地消に関するアンケート」の結果について報告します。

実施部署：農林水産部 農業政策課

調査目的：今後、地元の農林水産物の利用及び消費拡大を促進させていくため

調査対象：薩摩川内市内に住所を有する方

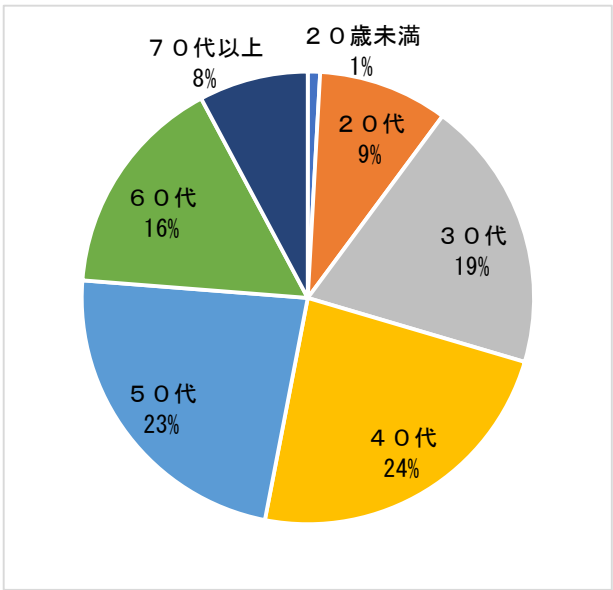
調査期間：令和6年7月1日（月）～7月31日（水）

調査方法：インターネット調査（eまちアンケート）

調査結果の回答状況：回答数345件

【1】あなたの年齢を教えてください。

項目	件数	%
20歳未満	3	1%
20代	32	9%
30代	67	19%
40代	81	24%
50代	80	23%
60代	55	16%
70代以上	27	8%



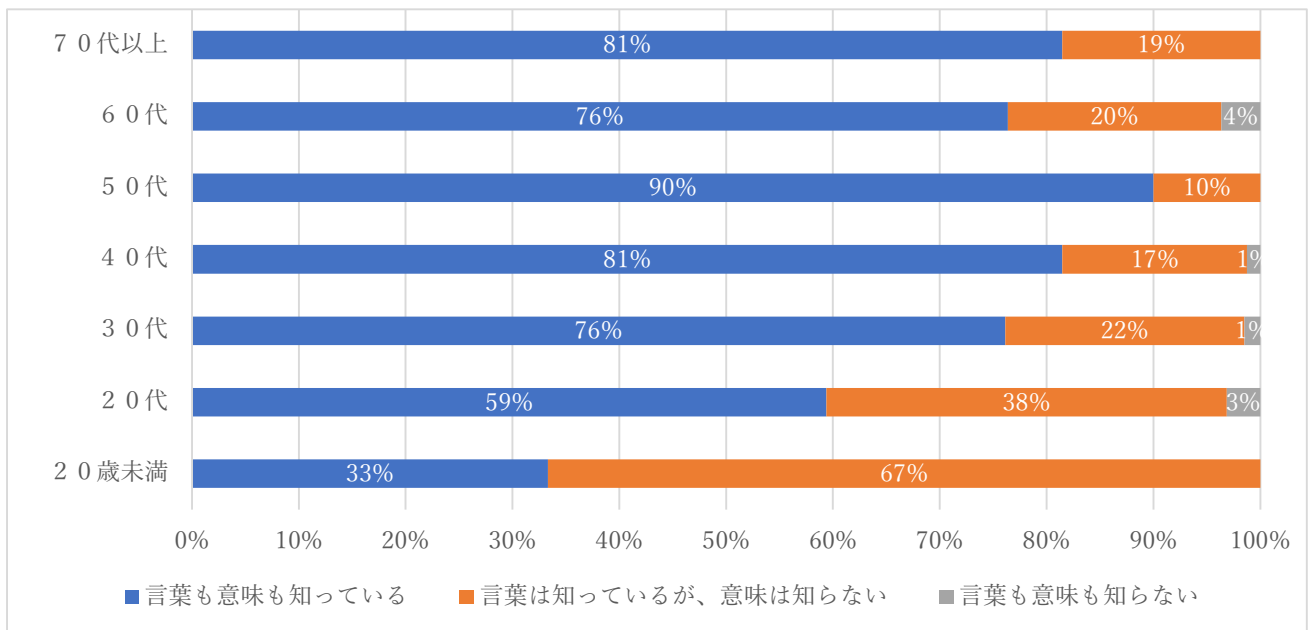
【2】「食育」という言葉やその意味を知っていますか。

全体

項 目	件 数	%
言葉も意味も知っている	273	79%
言葉は知っているが、意味は知らない	67	19%
言葉も意味も知らない	5	2%

※割合（％）は回答数345件に対する割合

年代別



- ・全体でみると、「言葉も意味も知っている」方が79%でした。次いで、「言葉は知っているが、意味は知らない」方が19%、「言葉も意味も知らない」方が2%でした。
- ・年代別でみると、「言葉も意味も知っている」の割合が最も高かったのは50代の90%であり、年代が下がるにつれて低くなる傾向があります。

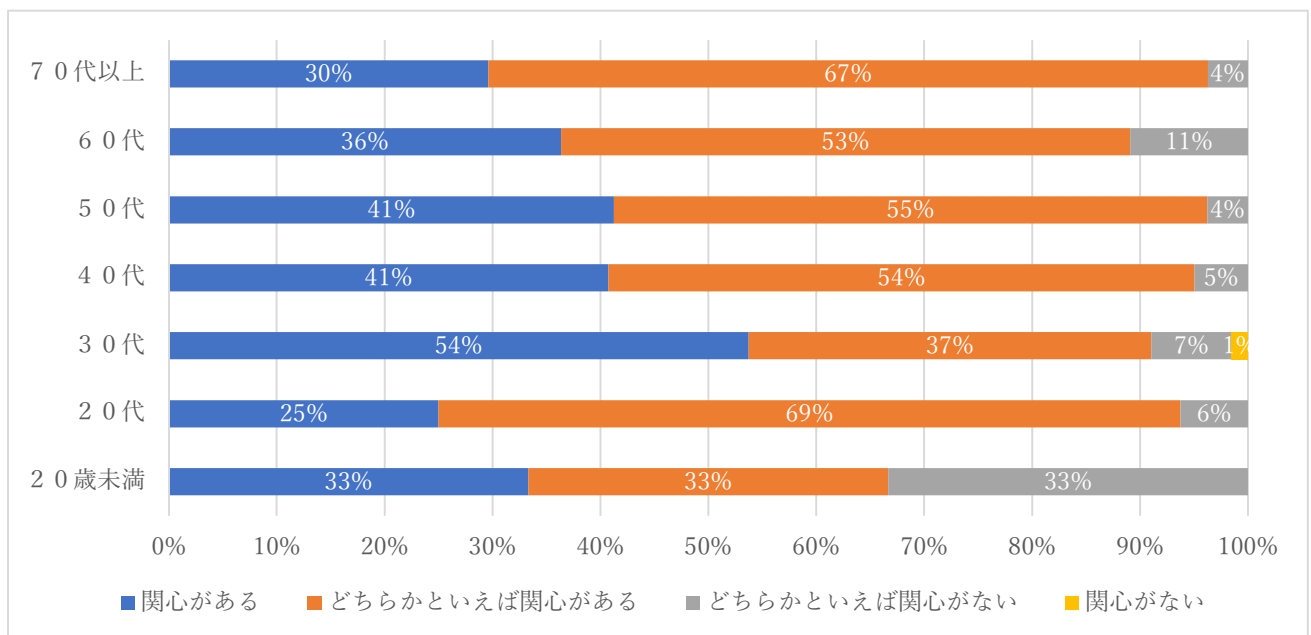
【3】「食育」に関心がありますか。

全体

項 目	件 数	%
関心がある	1 3 9	4 0 %
どちらかといえば関心がある	1 8 3	5 3 %
どちらかといえば関心がない	2 2	6 %
関心がない	1	1 %

※割合（%）は回答数345件に対する割合

年代別



- ・全体でみると、「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と回答した方は93%でした。
- ・20代以上は「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と回答した人は9割ほどいる中で、20歳未満は約6割でした。

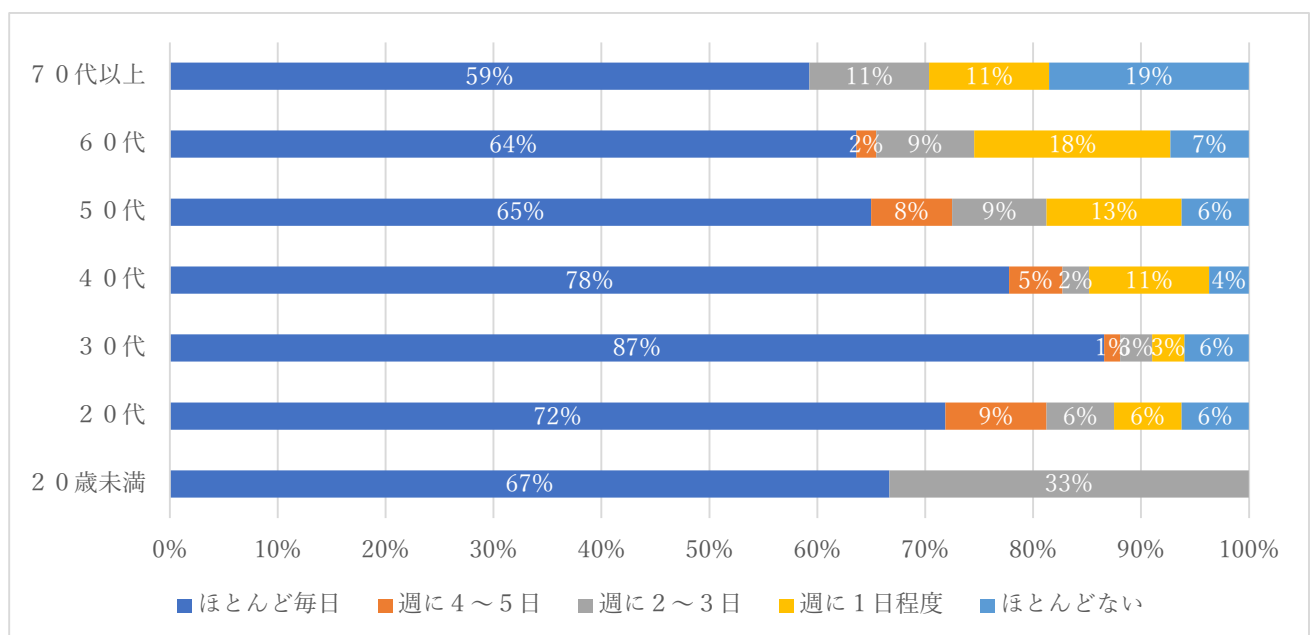
【4】家族や友人、地域等でどなたかと食事を共にする機会がどのくらいありますか。

全体

項 目	件 数	%
ほとんど毎日	2 4 9	7 2 %
週に 4 ～ 5 日	1 5	4 %
週に 2 ～ 3 日	2 2	6 %
週に 1 日程度	3 6	1 1 %
ほとんどない	2 3	7 %

※割合（％）は回答数 3 4 5 件に対する割合

年代別



- ・「ほとんど毎日」、誰かと食事を共にする人は72%でした。
- ・子育て世代は、「ほとんど毎日」誰かと食事を共にする割合が高く、年代が上がるにつれて低くなる傾向があります。

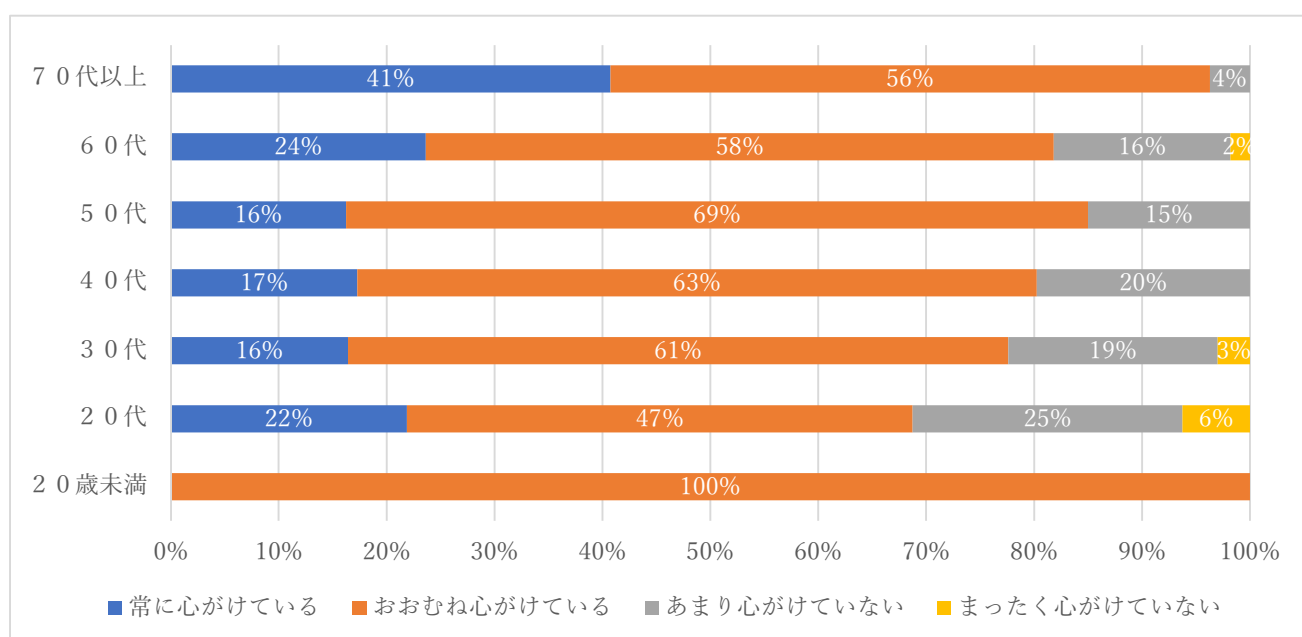
【5】日々の食生活において「主食」、「主菜」、「副菜」を基本とした食事のバランスを心がけていますか。

全体

項 目	件 数	%
常に心がけている	69	20%
おおむね心がけている	212	61%
あまり心がけていない	59	17%
まったく心がけていない	5	1%

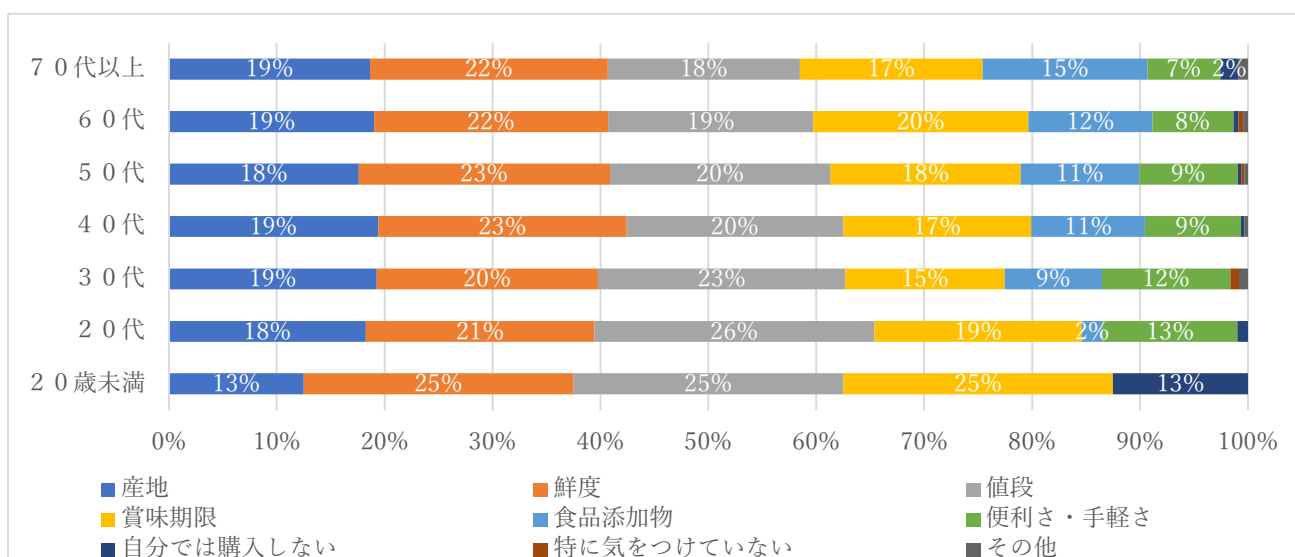
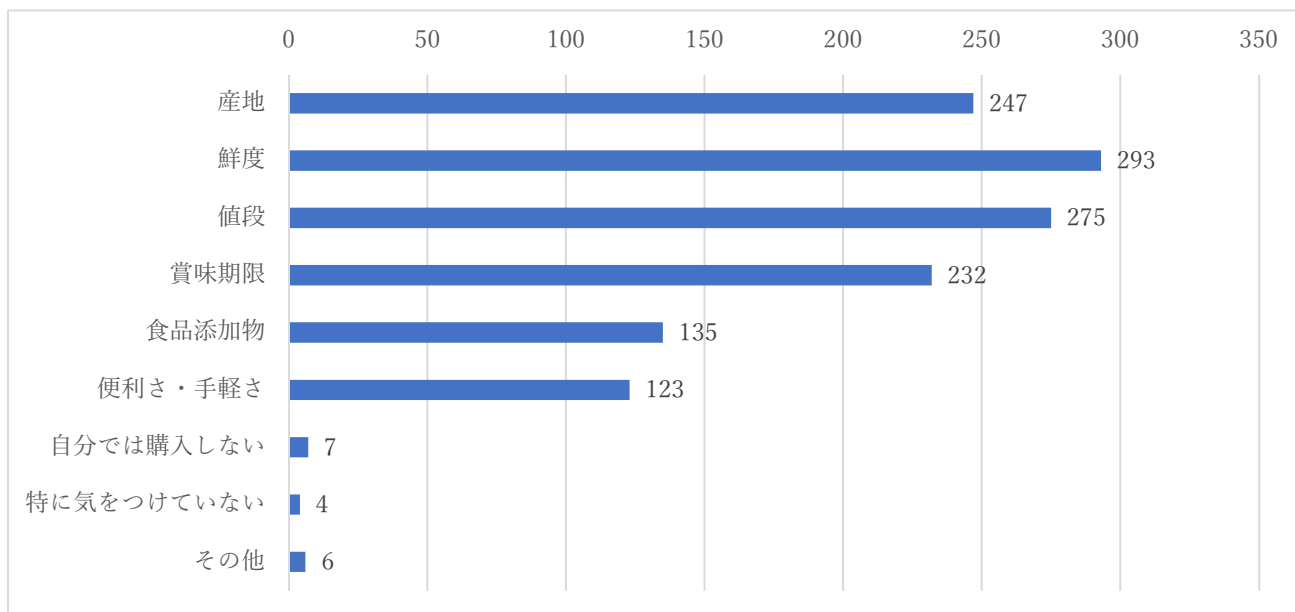
※割合（%）は回答数345件に対する割合

年代別



- ・食事のバランスを「常にこころがけている」割合は20%で、「おおむね心がけている」割合61%を含めると81%でした。
- ・年代が高くなるにつれて、食事のバランス意識が高くなる傾向があります。

【6】食品を購入する際に安全・安心な食材を選ぶために気をつけていることはありますか。 あてはまるものすべてを選択ください。



○ その他の回答

- ・購入する店舗や信頼する店で買う。
- ・裏面の表示を見て買う。
- ・有機野菜であるか、安心安全な資料で育った肉であるか。
- ・生産者名、生産日
- ・無農薬または低農薬のもの

- ・「鮮度」が一番多く、次に「値段」「産地」「賞味期限」と続きます。
- ・20代以上では、おおむね似たような比率となっていました。

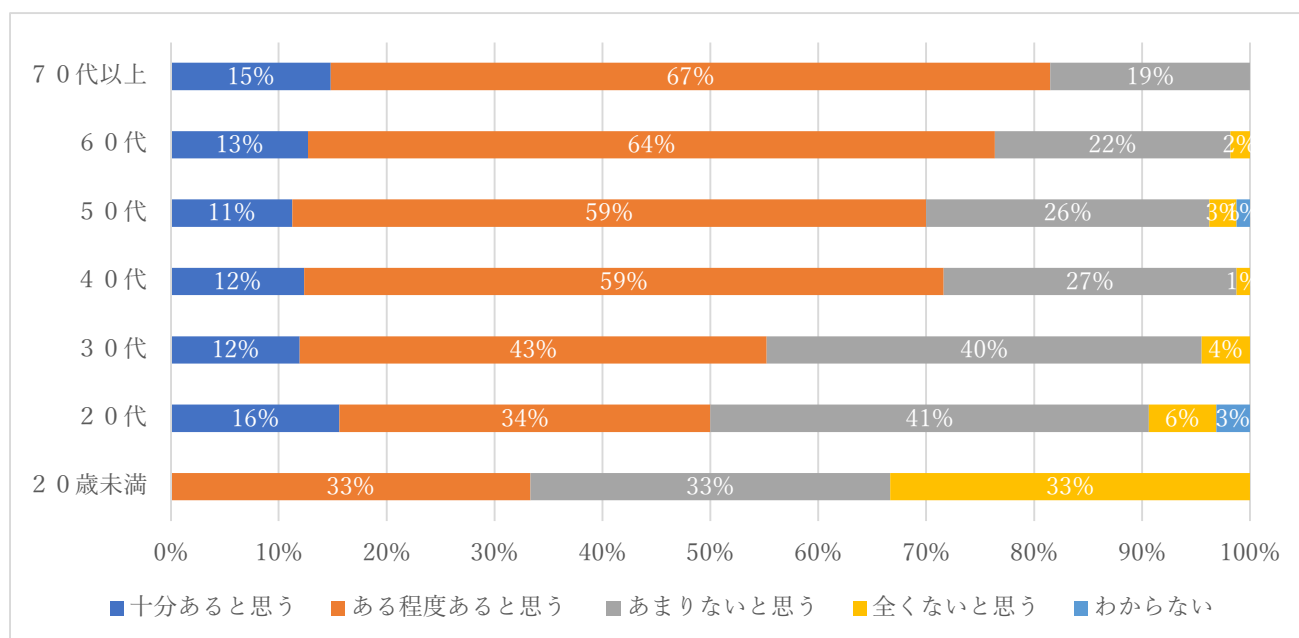
【7】あなたは健康を維持増進するため、どのような食品を選択すると良いかや、どのような調理が必要かについての知識（食品の安全性に関する知識）があると思いますか。

全体

項 目	件 数	%
十分あると思う	43	12%
ある程度あると思う	189	55%
あまりないと思う	101	29%
全くないと思う	10	3%
わからない	2	1%

※割合（%）は回答数345件に対する割合

年代別



- ・「十分あると思う」と答えた人は12%でした。
- ・年代別にみると年代が上がるにつれて、「十分あると思う」、「ある程度あると思う」と答える割合が高くなる傾向があります。

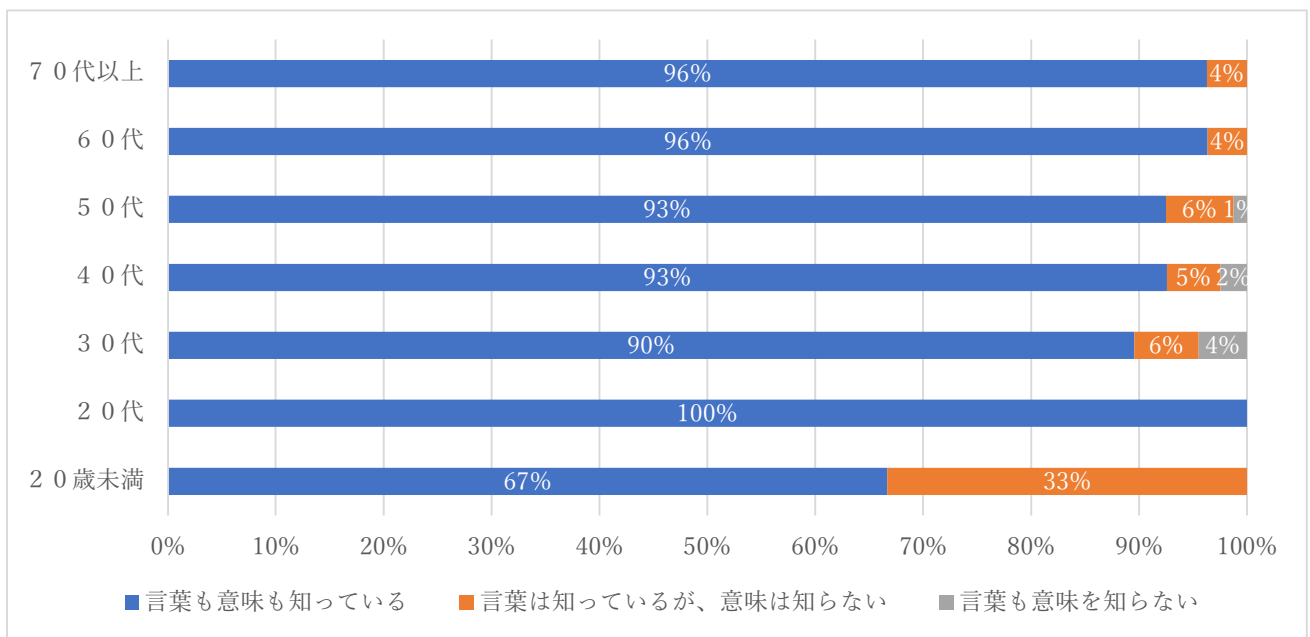
【8】「地産地消」という言葉やその意味を知っていますか。

全体

項 目	件 数	%
言葉も意味も知っている	3 2 2	9 3 %
言葉は知っているが、意味は知らない	1 7	5 %
言葉も意味も知らない	6	2 %

※割合（％）は回答数 3 4 5 件に対する割合

年代別



- ・「言葉も意味も知っている」と答えた人は93%でした。
- ・どの年代でも知っている割合は高く、「地産地消」が認知されていることが伺えます。

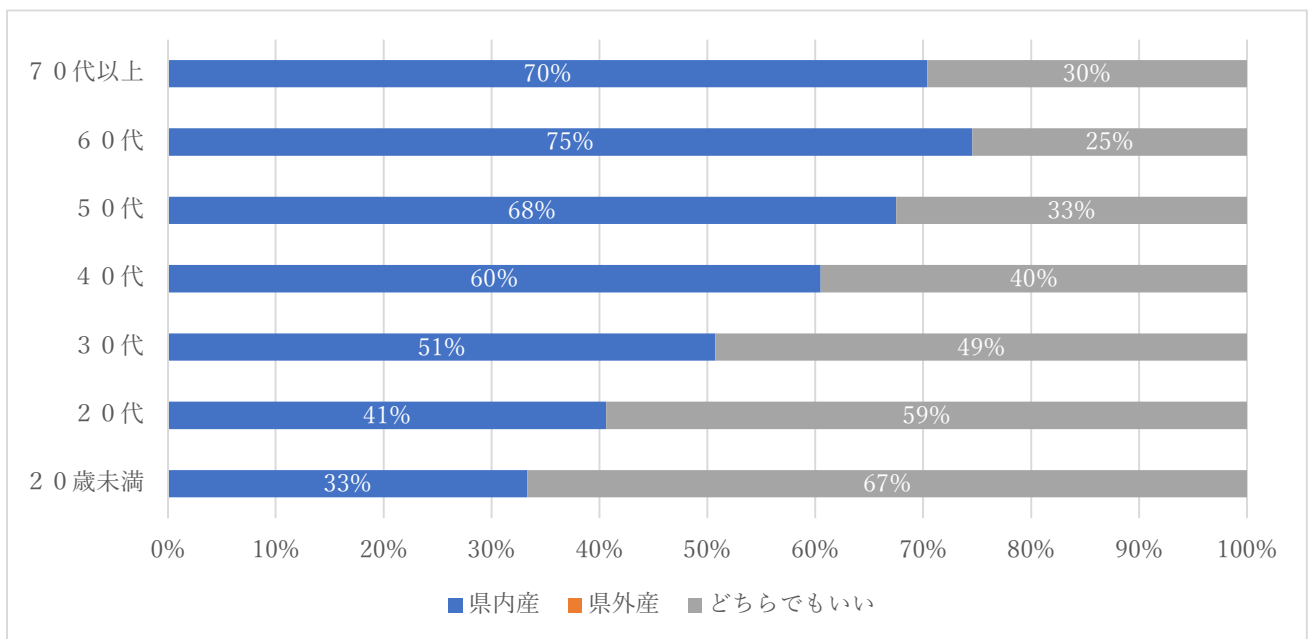
【9】食品を購入のする際、県内産と県外産、どちらを選びますか。

全体

項 目	件 数	%
県内産	2 1 1	6 1 %
県外産	0	0 %
どちらでもいい	1 3 4	3 9 %

※割合（％）は回答数 3 4 5 件に対する割合

年代別



- ・「県内産」を選ぶと答えた方は61%でした。
- ・年代が上がるにつれて、「県内産」を選ぶ割合は上がる傾向があります。

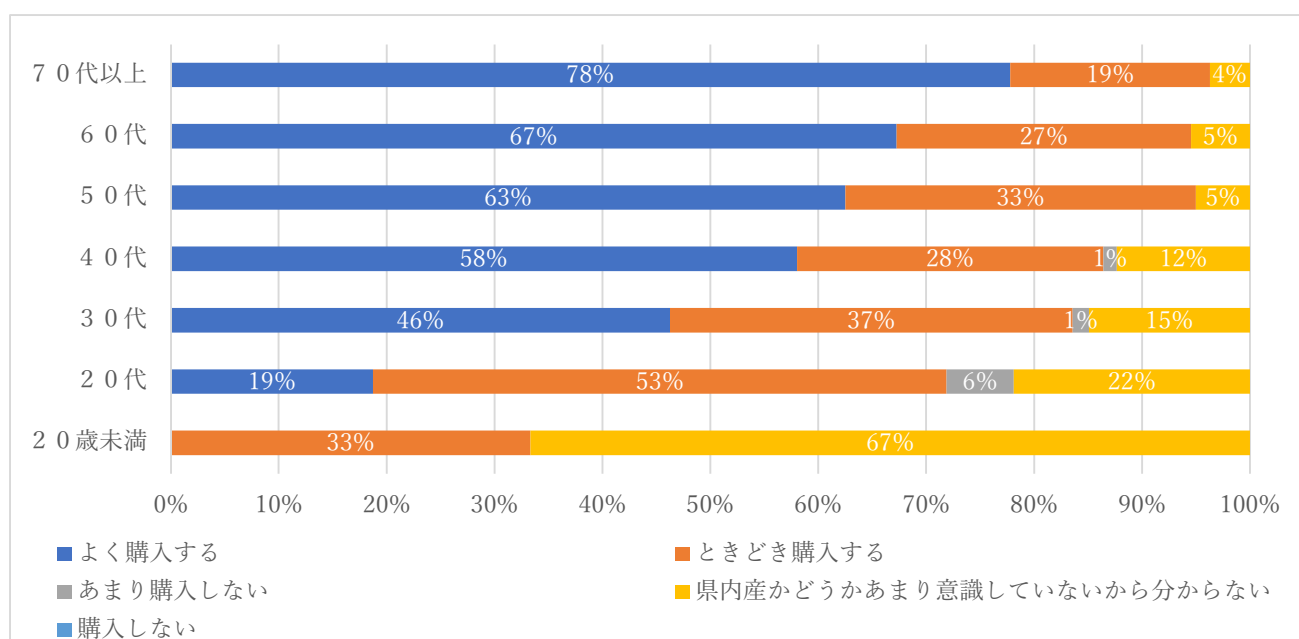
【10】県内産を購入する頻度を教えてください。

全体

項 目	件 数	%
よく購入する	192	56%
ときどき購入する	112	32%
あまり購入しない	4	1%
県内産かどうかあまり意識していないから分からない	37	11%
購入しない	0	0%

※割合（%）は回答数345件に対する割合

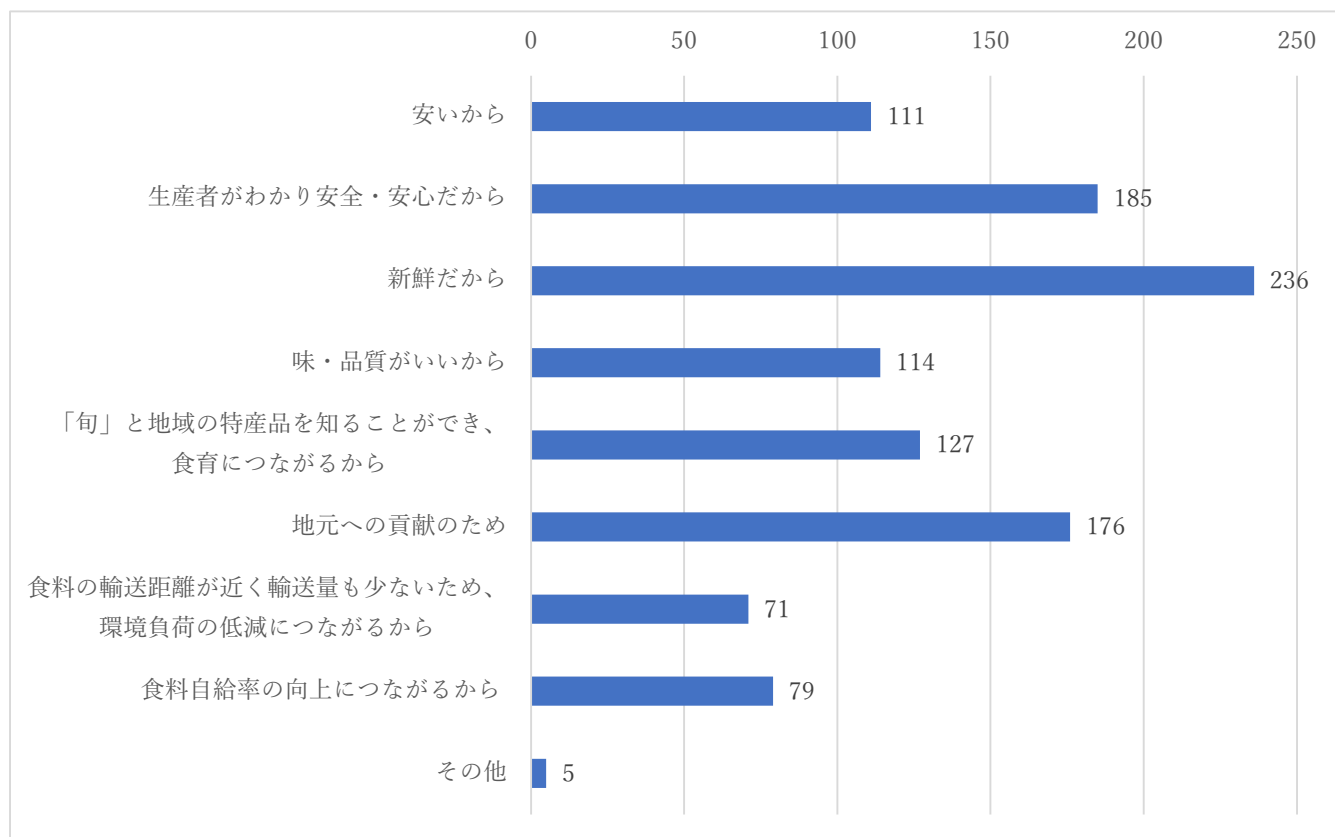
年代別



・県内産の購入割合は、「よく購入する」の56%が最も高く、「ときどき購入する」の32%を加えると、88%と高い割合です。

・年代別でみると、「よく購入する」は、年代が上がるにつれて割合が高くなります。

【11】【10】で『よく購入する』か『ときどき購入する』と答えた方にお聞きします。県内産の農林水産物を購入する理由を教えてください。



○ その他の回答

- ・市役所で農家さんと交流しながら買えるので伝統野菜の食べ方もわかるから。
- ・日本産であれば買うからから県内産にこだわらない。
- ・近くで販売しているから。
- ・たまたま欲しい物が県内産。

- ・「新鮮だから」が一番多く、次に「生産者がわかり、安心安全だから」「地元への貢献のため」と続きます。
- ・【6】の安心・安全のために気をつけていることと同様、新鮮さや鮮度が理由となっています。

【12】「食育」及び「地産地消」を促進していくために必要だと思うこと、実施してほしい取り組みがあれば教えてください。

○ 売り場の拡大等

- ・市内の各スーパーに地元生産者のコーナーを作って欲しい。形が不揃い、小さいまたは大きくても、鮮度が良く、安いことが多いから。また、旬の野菜が並ぶので時期の物を食べることができる。
- ・本市の水産物が、市内の店舗や飲食店で、なかなか購入・飲食できないと思うので、水産物の地産地消にも取り組んで欲しい。
- ・子連れでよく買い物にいくので、売り場に食育や地産地消のことについてのコーナーがあれば良いと思う。
- ・産地をもっと大きめに表示してもらいたい。産地を公表されていると安心して購入でき、食としても安心だと感じる。
- ・加工食品や調味料などは地産地消コーナーが無いので、ポップなどに鹿児島県産と書いてあったり、メニューの活用が書かれていたりすると気付いて買うことができるので目立つようにしてあると良いと思う。
- ・直売所などを増やす。
- ・道の駅や、無人直売所はとても良いと思っている。手軽に新鮮な物を買えるし、値段も安く助かっている。規格外のものも捨ててしまうのではなく、十分食べられるので、少し値段を安くすれば良いし、「無駄なく消費できるのでは」といつも思う。
- ・地元ならではの食材は、ブランド化するだけでなく、規格外のものなどは安価に提供する。

○生産者等

- ・生産者の顔が見えると嬉しい。野菜など鮮度が大事な商品には、もっと誰が作ったか写真を増やしていった方がいいと思う。
- ・生産者の方のコメントがあると嬉しい。
- ・地域の農家さんなどと積極的に連携して農業、食育がどのようなものなのかについて宣伝していく。
- ・会社化、法人化して川内市も農産物に力を注ぐ事は不可能なのか？立地の良い荒廃地だけでも活用して地産の新鮮な農産物が豊富になればと。
- ・地産地消したいけど量がないと思う。特に今夏野菜が地産地消のコーナーにない。農家の支援に力を入れて欲しい。
- ・多くの生産者に沢山作ってもらえる様、推進と援助をして、これからの食料事情に対応してもらいたい。
- ・鹿児島県の野菜は美味しいと評判がいいから農家の方がネット販売出来る様に勉強会をすればよいと思う。
- ・自治体をあげて生産者の財政支援、後継者の育成に力を入れて欲しい。地元での無添加や減農薬の食材の生産を自治体で支援して流通しやすくしてほしい。
- ・農家を支える事。1番地産地消を考え、食を愛する農家さんの生活が困窮する事があってはならない。特に有機農家さんは膨大な労力と手間がかかる。農家さんが抱える問題は消費者である私達にも大問題である。

- ・若い人が、収益性のある農業ができるような仕組みをみんなで作っていけるよう支援をしてもらいたい。
- ・野菜や果物を加工せずに販売しては廃棄が増えそうだから、日持ちする加工品の開発や補助をして欲しい。そしてそれが地域の名産品となるようブランド化とセット販売を検討してほしい。
- ・コンビニなど、道の駅で農家の人が手軽に販売出来るシステムがあればいいと思う。

○地元飲食店との連携

- ・飲食店などでもメニュー等でアピールして貰えれば良いのではないかな。
- ・地産地消の食材を使った弁当や惣菜の販売。

○レシピ等

- ・地産商品を使った料理教室やレシピ配布。
- ・生産者がおすすめするレシピ(季節ごと)があるとやってみようと思う。
- ・身近に家庭料理に利用しやすいように、スーパーの地産地消コーナーに、簡単レシピや栄養素を食材のそばに貼り出す。
- ・夫婦共働きで夕飯の準備がいつもバタバタなので旬の野菜を使った時短レシピの紹介があると嬉しい。
- ・レシピを充実させて欲しい。椿油は用途がたくさんあるのに積極的にアピールしていない。簡単なレシピを掲示して欲しい。
- ・スーパーにて、旬の野菜、過剰に余る食材などを使ったメニューを、広く提案してもよいのでは。試食じゃなくても「野菜(コレ)ひとつで！」みたいな感じで、野菜の下に簡単な料理法を書いておけばどうか。

○教育、給食等

- ・学校給食から子どもたちへの食育。日本の伝統の食文化、子どもの将来の食生活習慣、子どもの成長を支える学校給食は、食育の最前線といえる。
- ・学校給食に町の農家さんが作ったお野菜、もしくはオーガニックのものを1品目でも取り入れて欲しい。子どもに本物の味を知って欲しい。子供の健康をまもりたい。
- ・食育は教育機関で取り組んでいるが、家庭でも食育に取り組み、小さい時から食に興味を持ってほしい。
- ・小中学校で食育の授業、特産品を使った給食を提供するなどの取り組み。薩摩川内市の特産品はこれだ！と理解できるのではないかなと思う。
- ・常日頃から給食の食材に使ったり、子どもたちに地域の食材の話をしたり、生産者・生産場所等の話をしたりして、食への関心をさらに高めてほしい。
- ・食育及び地産地消に必要なことを学校で学べるようにしてほしい。こどもだけではなく、保護者も学ぶことが大切だと思う。
- ・学校の給食時間を1時間位は確保して、子ども達が落ち着いてゆっくり噛んで食べる事や食事のマナー等を身につけられる様に取り組んで欲しい。

○イベント等

- ・マルシェのようなものを各地域で定期的に行って欲しい。もしくはトラックで売りにくる。学校の校庭や体育館、住宅街の公園など、そこに住んでいる人が徒歩でも行けるような朝市やマルシェが月に

一度、2ヶ月に一度くらいあれば、地産地消や食育にも目を向ける機会になるのではないかと？

- ・ 県内産、地元の食品が知れる機会や生産者がわかるマルシェなどがあれば、安心もあり、またお店でも買う機会になる。
- ・ 季節でイベントやバザー等を開催。その中で製品紹介や調理の新提案やアイデア紹介、試食販売。
- ・ 規格外野菜の利用の料理教室。

○農業体験等

- ・ 親子で農業体験やご飯作り体験などを川内でしてくれると行きやすいし子供達の教育にもなる。
- ・ 食育には家庭菜園が一番だと思うので手軽にプランター栽培できる野菜や方法を広めてほしい。
- ・ 家庭菜園の支援、家庭農園の貸し出し。
- ・ 小さい頃から一緒に野菜を育てる、買い物をして一緒に調理をするという環境作りと教育が必要。
- ・ 地域ごとで苗を配布して畑作業など気軽に経験できる場があると嬉しい。
- ・ 教える高齢者がいる家庭農園用の畑を貸す。

○情報発信等

- ・ 広報で、その月の産物や翌月の旬の物を知らせるコーナーがあったらよい。
- ・ メディア、インターネットなどにより、食育に関する情報を提供すること。
- ・ 薩摩川内市 LINE での紹介。
- ・ 地元で取れた野菜などの安全性を伝えていくこと。
- ・ 様々な公共施設で、地元で採れた野菜等を使用する機会が増えれば地産地消の取り組みに繋がり、安価で提供できそう。
- ・ 様々な農家さんの情報が、薩摩川内市ホームページなどで気軽に見られたらいいと思う。
- ・ 大人でも未経験から野菜を気軽に作れるような市民講座があったらいいと思う。耕作放棄地を活用できたらいいと思う。
- ・ 市の広報などで農家や農産物の話題を幅広く取り上げて欲しい。
- ・ 広報誌や FM で地産地消の情報発信をして欲しい。

「食育・地産地消に関するアンケート」では、たくさんの回答・御意見をいただきました。いただいた御意見の中で、同様の内容はまとめて記載させていただいておりますのでご了承ください。

回答いただいた内容につきましては、貴重な御意見として、今後の本市の農林水産物の利用及び消費拡大を促進させていく上での参考とさせていただきます。

ご協力、誠にありがとうございました。